

マルコの福音書1:21-28 イエスの権威

この世には様々な権威があり、権力者がいます。私たちは皆、色々なところで何らかの権威の下にあります。それは先生方かもしれませんし、皆さんの年齢によっては親かもしれません。雇用主かもしれません。たとえ自営業者であっても、税金を納めなければ、政府がすぐにあなたの生活に権威を振るうことでしょう。権威者として認められている人の中には特に肩書がある訳でも、特別な役割がある訳でもなく、ただその言動ゆえに耳を傾けるに値する何かの専門家のような人で、何かの地位についているわけではないけれど大いに尊敬されているという人もいます。今日のマルコによる福音書の箇所では、イエスがそのような権威をミニストリーにおいて発揮しておられるのを見ることができます。

神であられるイエスは地に来られ、ローマ皇帝を失脚させ、世界的な王座に就かれることもことも出来たでしょう。ですが、そのような権利はイエスが望まれた権利ではありませんでした。実際、イエスは巨大な権力と地位を持つ人々に期待されることとは正反対のことをするために来られました。ピリピ人への手紙2:6-8はこう言っています。「キリストは、神の御姿であられるのに（つまりキリストは神ということ）、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、7 ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、8 自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。」イエスは肉体を持って人となられたとき、ご自分の地位的権威を手放されましたが、その言葉と行動の権威ゆえに人々はイエスに従い、イエスを信じたのです。同じ言葉と行動が、今日でも私たちをイエス・キリストに従いたいと思わせるはずです。マルコの福音書1:21から読み始め、まず、イエスの言葉の権威について見ていきましょう。「それから、一行はカペナウムに入った。イエスはさっそく、安息日に会堂に入って教えられた。22 人々はその教えに驚いた。イエスが、律法学者たちのようにはなく、権威ある者として教えられたからである。」ここで、イエスが少なくとも最初の4人の弟子を呼び集めてからどれほどの時が経っていたのかは分かりませんが、少なくともイエスが宗教的な教師として知られるようになるほどの時が経っていたと思われまふ。安息日の礼拝において会堂で教えるよう求められたのは、そのような人達だけであったと思われまふ。会堂とは、安息日の礼拝に毎週エルサレムまで来ることが出来ない人々が礼拝するため、エルサレム郊外の町や村にあったユダヤ人のための地域の礼拝所です。有名な教師が町を訪れるときは、このような会堂に招かれて教えることがよくありました。そのため、これがイエスのミニストリーが始まってから少し経った頃の事であったと思われまふ。

ですが、イエスの教えの要はイエスがどのように教えたかにあります。ユダヤ教のラビたちの典型的な教え方がどのようなものであったかを理解する必要があります。今日でもユダヤ教の安息日礼拝に出席すると、ラビは同じような教え方をします。彼らは自分たちが主張することが何であれ、それを支持するために他のラビを引用します。つまり、彼らは語る全てにおいて、過去にいた他の有名な教師の権威に基づいていることを望んだのです。イエスは違いました。その教えの根拠とした権威は、イエスご自身のものでした。マルコの福音書ではよくあることですが、ここではイエスの教えがどのようなものであったかは述べられていません。けれどマタイの福音書7:24-29では彼らがどのような教えに耳を傾けたかを知ることが出来ます。マタイの福音書7:24-29にはこのようにあります。「24 ですから、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます。25 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家を襲っても、家は倒れませんでした。岩の上に土台が据えられていたからです。26 また、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人にたとえることができます。27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもその倒れ方はひどいものでした。」28 イエスがこれらのことばを語り終わられると、群衆はその教えに驚いた。29 イエスが、彼らの律法学者たちのようにはなく、権威ある者として教えられたからである。」その教えにおいても、イエスは言葉だけで宗教指導者たちとご自分の違いを人々に示されました。以前も言及しましたが、イエスが示しているのは、イエスに従うことと宗教に従うことの違いです。イエスはご自分に従い、その教えとことばに耳を傾ける弟子を求めておられるのです。ラビの言

葉に人々の目を向けるのではなく、とても直接的に「わたしのこれらのことばを聞いて、それを行う者はみな、賢い人にたとえることができる」と言っておられます。

そして、会堂で教えておられる際に、ことばだけに留まらず、その権威を示す別の出来事が起こります。23-27節を見て下さい。「23 ちょうどそのとき、汚れた霊につかれた人がその会堂にいて、こう叫んだ。24 「ナザレの人イエスよ、私たちと何の関係があるのですか。私たちを滅ぼしに来たのですか。私はあなたがどなたなのか知っています。神の聖者です。」25 イエスは彼を叱って、「黙れ。この人から出て行け」と言われた。26 すると、汚れた霊はその人を引きつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。27 人々はみな驚いて、互いに論じ合った。「これは何だ。権威ある新しい教えだ。この方が汚れた霊にお命じになると、彼らは従うのだ。」」イエスのことばの権威から始まった出来事が、ここでイエスの行いにおける権威を目の当たりにします。その権威を示す、何と素晴らしい行いでしょう。悪霊につかれた男が会堂に入ってきます。イエスの神性、神そのものであられたことの証拠が欲しいのであれば、マルコがここで「汚れた霊」と呼んでいるサタンの悪霊たちが、イエスを神と認識しているという事実は驚くべき証拠です。悪霊や悪霊の働きに重きを置きすぎる人々もいますが、私たちの教会では、反対にそれを十分認識していないかも知れません。聖書はサタンもサタンのために働いていると思われる悪霊も、ある程度大きな力を持っていることを明確に示しています。人々に肉体的な危害を加えることもできます。マタイの福音書12:22には「2 そのとき、悪霊につかれて目が見えず、口もきけない人が連れて来られた。イエスが癒やされたので、その人はものを言い、目も見えるようになった。」とあります。彼らは人を操り、超人的な能力を与えることができます。使徒の働き19:13-16からそのことを知ることができます。「ところが、ユダヤ人の巡回祈祷師のうちの何人かが、悪霊につかれています人たちに向かって、試しに主イエスの名を唱え、「パウロの宣べ伝えているイエスによって、おまえたちに命じる」と言ってみた。14 このようなことをしていたのは、ユダヤ人の祭司長スケワという人の七人の息子たちであった。15 すると、悪霊が彼らに答えた。「イエスのことは知っているし、パウロのこともよく知っている。しかし、おまえたちは何者だ。」16 そして、悪霊につかれています人が彼らに飛びかかり、皆を押さえつけ、打ち負かしたので、彼らは裸にされ、傷を負ってその家から逃げ出した。」また集団で人に憑依することができます。ルカの福音書8:2からそのことが分かります。「2 また、悪霊や病気を治してもらった女たち、すなわち、七つの悪霊を追い出してもらったマグダラの女と呼ばれるマリア」24節でも悪霊が「私たち」と言っています。ヨハネの福音書12:31では、サタン自信が何らかの形でこの世を支配していて、至る所ではっきり目にするので悪と罪の背後にいることを示しているようにさえ見えます。ヨハネの福音書12:31は「31 今、この世に対するさばきが行われ、今、この世を支配する者が追い出されます。」と述べています。つまり、悪霊たちは超人的で、人間よりも大きな力を持っていることが明らかです。ですが、敵が皆さんのアイデンティティと力を認めざるをえなくなったとき、彼らよりも大きな権威を持っているのは皆さんです。

そして、それが悪霊たちがイエスに直面した時の状態でした。イエスが「黙れ。この人から出て行け」と言われたとき、彼らは従わざるを得ませんでした。悪霊は進んでそうしたわけではありません。去り際に、霊は男を引きつけさせ、大声を挙げさせましたが、イエスの権威に従わざるを得ませんでした。この行いによって、イエスの教えに耳を傾けていた人々はイエスの権威を確信したのです。イエスは悪霊に黙るよう言われましたが、実際には、イエスがメシヤであり、神の聖者であるという、そこにいた人々の多くがまだ理解も受け入れもしていなかった真理を語っていました。それなのになぜ、イエスは悪霊に黙るよう命じたのでしょうか。福音書にはイエスが悪霊や助けた人々に、自分が何者であるかについて黙っているよう命じられた箇所が、実は何度もあります。2つ可能性がありますが、そのどちらもが地上でのイエスの目的を理解するところからきています。癒しや悪霊を追い出すという奇跡で有名になる事を望まれず、贖いという中心的使命にフォーカスされたかったのかも知れません。これらの奇跡は全て、イエスが語られた真理を強固なものとしましたが、イエスが来られた意義はそこにはありません。2つ目に、十字

架と復活までは、イエスの真のご性質は知られるべきではなかったということも大いにあり得ます。いずれにせよ、ここで重要なのは、絶対的な権威の源であるイエス・キリストからただ叱責されるだけで、悪霊は立ち去らざるを得ないということです。長い呪文は必要ありません。魔法の呪文や宗教的な道具も必要ありません。この悪霊が従うのは、神ご自身であられるイエス・キリストが語られた言葉、それだけです。そして、イエス・キリストの権威が反論の余地すらない証拠に、その言葉を聞き、その行いを見た人々はイエス・キリストについて語らずにはおられませんでした。28節は「こうして、イエスの評判はすぐに、ガリラヤ周辺の全域、いたるところに広まった。」と書いています。イエスに直接会い、その力と権威を目の当たりにした人々は、イエスを独り占めすることができません。それは弟子であることの証しであります。イエスによって人生を変えられた人々は、他の人々にイエスを分かち合います。私たちがイエスについて語ることをためらうのは、往々にして、私たちの人生がこれらの最初の弟子たちのようにイエスの言葉と権威に影響を受けていないからです。もちろん、その日会堂にいた人々は、直接イエスの言葉を聞き、その権威を目にすることができました。現代の私たちにはそのような経験はできませんから、ある意味、私たちの人生がこれらの最初の聴衆や弟子たちほどに変えられなくても無理はないかも知れません。ある点を除けば、それが正しいでしょう。イエスの権威はその言葉と行いによって示されましたが、そのどちらもが今日の私たちにも完全に与えられています。

イエスの言葉は神の言葉ですから、私たちはイエスの言葉を知っています。マタイの福音書でイエスが自分の言葉に従うよう言われたのは、それが直接神からのものであったからです。この聖書という書物は、私たちが神の心を知り、また神の子イエスを知ることができるよう、神の靈感を受けて記され、守られた神の言葉そのものです。テモテへの手紙第二3:16-17にはこうあります。「16 聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。17 神の人がすべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです。」聖書によっては福音書の中のイエスの言葉が赤い文字で記されているものがありますが、イエスご自身はご自分の言葉と聖書のその他の言葉を分けられたわけではないということを理解する必要があります。コリント人への手紙第一に記されたパウロの言葉は神の靈感によるもので、イエスが山上の説教で語られた言葉と同じ権威があります。ですから私たちは聖書を読むと、よりキリストを知ることになります。よりキリストが何を優先されるかを知ります。キリストが神であられることが分かるので、キリストの権威をより認めるようになります。私たちイエスに従う者に対してイエスが抱いておられる心を知るようになります。そして、聖書は神の言葉であるのですから、イエスの言葉と同じく信頼できる、権威あるものであるはずですが、聖書は絶対的に完全な神から与えられたものですから、神の言葉の性質を表すために無誤性という言葉が使われます。それが意味することは、イエスがその生涯に神の権威を持っておられることを当時の人々に示された、イエス・キリストの力についての話は、全て完全に真実であるということです。それらの言葉は、当時のキリストに従った人々が目撃したのと同じように、イエス・キリストが私たちの人生にも持たれている、また持たれるべき権威について語りかけます。

悪霊でさえイエスの権威に従順に従ったのであれば、私たちも同じく従順に従うべきではないでしょうか。従うことの第一歩は、救いのための悔い改めと信仰のメッセージに応答することです。イエスが自分の救い主でなければ、イエスの権威を認めることはできたとしても、その権威に実際に従うことはできません。イエスは偉大な哲学者であった、あるいはブッダ、シッダータ・ゴータマやムハンマドといった偉大な宗教家であったという人はたくさんいます。この日会堂にいた多くの人は、イエスについて見聞きしたことを他の人に話して回りましたが、実際に真の信者になるのではなく、いうなればイエスの崇拜者になりました。今日、あなたも同じ状況にあるかも知れません。イエスについて知っています。毎週この教会でイエスの話を聞いておられるかも知れませんが、まだ主の権威に従い、自分の罪を悔い改めて、自分の人生を主であり救い主であるキリストに委ねていないのかも知れません。今日が、信仰と悔い改めをもってその権威に応答する日かも知れません。キリストに従うとするクリスチャンは、イエス・キリストの権威の真の姿を知るとき、その名声を広める者、他の人にキリストを伝える者となります。皆さんが

最後に友人や同僚、家族にイエスの事を話したのはいつでしょうか。イエスの名声を広めるために、皆さんは何をしておられますか。イエスの名声を広めるために、私たちの教会は何をしているでしょう。イエスの権威に応答し、イエスの名声を横浜中に、日本中に、そして世界中に広めてまいりましょう。祈ります。

Mark 1:21-28 Jesus's Authority

There are many types of authority and authority figures in this world. All of us at various levels are under authority of some kind. That may be teachers, it may be parents depending on your age. It could be an employer. And even if you are self-employed, just try not paying your taxes and see how quickly the government exerts its authority into your life! There are people who are recognized as authority figures who do not have titles in front of their names or specific roles which give them authority, and those people are usually greatly respected and listened to not based on their positional authority, but on their words and actions which show them to be an expert in something who should be listened to. In today's passage in Mark, we see Jesus exert that type of authority into his ministry. As God, he could have come to earth and in an incredible display of authority uprooted the Roman emperor and taken a worldwide throne over the earth. But that wasn't the authority he wanted to use. In fact, he came to do exactly the opposite of what people expect of someone with vast power and positional authority. [Philippians 2:6-8](#) says, [6](#) who, though he was in the form of God, [meaning he was God] did not count equality with God a thing to be grasped, [7](#) but emptied himself, by taking the form of a servant, being born in the likeness of men. [8](#) And being found in human form, he humbled himself by becoming obedient to the point of death, even death on a cross. Jesus gave up his positional authority when he took on flesh and became human, but because of the authority that he exerted his words and his actions, people followed him and believed in him. Those same words and actions should motivate us to follow Jesus Christ even today.

Let's begin reading at verse 21 of Mark 1 and see first **the authority in his words**. [21](#) And they went into Capernaum, and immediately on the Sabbath he entered the synagogue and was teaching. [22](#) And they were astonished at his teaching, for he taught them as one who had authority, and not as the scribes. We don't know how long this was after Jesus called at least his first 4 disciples, but it seems long enough that he had become known as a religious teacher. Those would have been the only people asked to teach at the synagogue during the Sabbath day worship service. The synagogues were local places of Jewish worship that were located in villages in towns outside of Jerusalem for people to worship who could not come to Jerusalem every week for Sabbath worship. It was very common for well known teachers to be invited in to teach in the synagogues when they came through town, and this shows that this actual event likely took place a bit later in his ministry.

The key to Jesus's teaching, though, is how he taught. You have to understand what the typical way of teaching was for the Jewish Rabbis. Even today, if you attend a Jewish Shabbat service, Rabbis will teach the same way. They quote from other Rabbis to support whatever point they are making, so that basically, with everything they say, they want it to be based on the authority of other well-known teachers throughout history. Jesus was different. His authority he based his teaching on, was his own. While is typical with Mark, we don't actually hear any of Jesus' teaching here, but in [Matthew 7:24-29](#), we can get a taste of what they were hearing. [Matthew 7:24-29](#) says, [24](#) "Everyone then who hears these words of mine and does them will be like a wise man who built his house on the rock. [25](#) And the rain fell, and the floods came, and the winds blew and beat on that house, but it did not fall, because it had been founded on the rock. [26](#) And everyone who hears these words of mine and does not do them will be like a foolish man who built his house on the sand. [27](#) And the rain fell, and the floods came, and the winds

blew and beat against that house, and it fell, and great was the fall of it.”²⁸ And when Jesus finished these sayings, the crowds were astonished at his teaching,²⁹ for he was teaching them as one who had authority, and not as their scribes. Even in his teaching, using just words, he was pointing people to the difference between himself and the religious leaders. I mentioned it before, but really what Jesus is showing is the difference between following him and following a religion. He wants disciples who follow him, who listen to his teaching and his words. He is not pointing anyone to other Rabbi’s words, he says very directly, “everyone…who hears these words of MINE and does them will be a like a wise man…”

But while in the synagogue teaching, another event happens that shows his authority and goes beyond just words. Look at verses 23-27.²³ And immediately there was in their synagogue a man with an unclean spirit. And he cried out,²⁴ “What have you to do with us, Jesus of Nazareth? Have you come to destroy us? I know who you are—the Holy One of God.”²⁵ But Jesus rebuked him, saying, “Be silent, and come out of him!”²⁶ And the unclean spirit, convulsing him and crying out with a loud voice, came out of him.²⁷ And they were all amazed, so that they questioned among themselves, saying, “What is this? A new teaching with authority! He commands even the unclean spirits, and they obey him.” While this event starts with the authority in Jesus’s words, **we see now Jesus’s authority in his acts.** And what an incredible action that shows his authority. A demon possessed man shows up in their meeting. And if you ever wanted proof of Jesus’s deity, his identity as God himself, the fact that Satan’s demons, or as Mark calls them here, “**unclean spirits**” recognize him as that is incredible proof. Some people put too much emphasis on evil spirits or demonic activity, while probably in our circles of churches, we may not put enough. The Bible is clear that Demons and Satan who they seem to work for do have power to some extent, even significant power. They can harm people physically. **Matthew 12:22** tell us, **22 Then a demon-oppressed man who was blind and mute was brought to him, and he healed him, so that the man spoke and saw.** They can control people and give them superhuman abilities. **Acts 19:13-16** shows this. ¹³Then some of the itinerant Jewish exorcists undertook to invoke the name of the Lord Jesus over those who had evil spirits, saying, “I adjure you by the Jesus whom Paul proclaims.” ¹⁴Seven sons of a Jewish high priest named Sceva were doing this. ¹⁵But the evil spirit answered them, “Jesus I know, and Paul I recognize, but who are you?”¹⁶ And the man in whom was the evil spirit leaped on them, mastered all of them and overpowered them, so that they fled out of that house naked and wounded. They can possess people as a group. **Luke 8:2** mentions this. **2 and also some women who had been healed of evil spirits and infirmities: Mary, called Magdalene, from whom seven demons had gone out…** We may see this in verse 24 here as well, where the demon uses the plural personal pronoun, “us.” **John 12:31** even seems to indicate that Satan himself is in some way is in control of this world, and is behind the evil and sin we see so clearly everywhere. **John 12:31** says, **31 Now is the judgment of this world; now will the ruler of this world be cast out.** So, clearly, these demons have powers that are superhuman, and greater than that of human beings. But, when your enemies are forced to acknowledge your identity and power, then you are the one with greater authority than them.

And that was the position these demons were in when facing Jesus. When Jesus told them, “**Be silent, and come out of him!**”, they had to obey. The demon did not do this willingly. While leaving, he made the man convulse and scream, but he had to obey

Jesus's authority. It was this action, that convinced the people listening to his teaching, of his authority. Now, Jesus tells the demon to be quiet, although, in reality, the demon is speaking the truth that many of those listening did not yet understand or accept – that Jesus was the Messiah, the **holy one of God**. So why does he command the demon to be silent about that? It actually happens many times in the gospels where Jesus either tells demons or those he is helping to keep silent about who he is. There are two possibilities, and both are coming from a place of understanding his purpose here on earth. He may not want to be known for the miraculous actions of healing or casting out demons, but keep the focus on his main mission of redemption. All of those miraculous actions reinforce the truth of what he is saying, but they are not the point of his coming. Secondly, it very well could be that until the cross and the resurrection, the true nature of Jesus was not supposed to be known. Either way, the point here is that all it takes is a simple direct rebuke from Jesus Christ, the source of absolute authority, and the demon has to leave. There is no long incantation. There is no magic spells or religious objects. There is simply the spoken word of Jesus Christ, who is God himself, that this demon must obey.

And at the irrefutable proof of the authority of Jesus Christ, the people who hear his words and see his actions cannot help but talk about him. Verse 28 says, **And at once his fame spread everywhere throughout all the surrounding region of Galilee**. For those who have experienced Jesus first hand, and seen his power and authority, they cannot keep Jesus to themselves. This is a mark of being a disciple. A life changed by Jesus will share Jesus with others. The reason many times we are hesitant to talk about Jesus is because our lives have not been impacted by his words and authority to the extent that these first disciples were. Now, of course the people in that synagogue that day had the benefit of hearing Jesus and seeing his authority first hand. We don't have that today, so in a way it makes sense that our lives might not be changed to the extent of these first hearers and disciples. That would be true except for one thing. **His authority was exhibited by his words and actions, both of which are completely available to us today.**

We know Jesus's words because his words are God's words. It's the reason he could tell them in Matthew to obey his words, because they come directly from God. In this book, the Bible, we have the very words of God divinely inspired and preserved so that we can know the mind of God, and in that way, know Jesus, the Son of God as well. **2Timothy 3:16-17 says, 16 All Scripture is breathed out by God and profitable for teaching, for reproof, for correction, and for training in righteousness, 17 that the man of God may be complete, equipped for every good work.** Some Bibles have red letters in the gospels to show the words of Jesus, but what you need to understand is that Jesus himself never separates his words from the rest of the Scriptures. Paul's words breathed out by God through him in First Corinthians carry just as much authority as the words Jesus spoke in the Sermon on the Mount. So when we read the Bible, we know Christ better. We know his priorities better. We come to recognize his authority more because we see his identification as God. We come to know his heart that he has for us, his followers. And because the nature of the Bible is that it is God's Word, then it has to be trustworthy and authoritative, just like Jesus's words. We use the simple term inerrancy to describe the nature of the Word of God because it comes from an absolutely perfect God. That means that all these stories of the power of Jesus Christ that demonstrated to the original people involved that he had the authority of God on his life are completely

true. They speak to us in the same way as the original followers of Christ saw them to demonstrate to us the authority that Jesus Christ has and should have in our own lives.

If even demons responded to the authority of Jesus with obedience, then shouldn't that be our response as well. The first step of obedience is responding to his message of repentance and faith in him for salvation. Without Jesus as your Savior, then you may recognize his authority, but not actually follow that authority. There are many people who are willing to say that Jesus was a great philosopher, or a great religious figure like the Buddha, Siddhartha Gautama or Muhammed. And many of the people in the synagogue that day who went and told others about their experience with Jesus did not actually become true followers of Jesus, more like admirers of Jesus. Today, you may be here in the same situation. You know about Jesus. Maybe you hear about him every week here in church, but have still not obeyed his authority and repented of your sins and entrusted your life to him as your Lord and Savior. Today can be the day you respond to his authority with faith and repentance. Christians who claim to follow Christ, when we get a true picture of the authority of Jesus Christ then we will be a part of spreading his fame, which is simply telling others about him. When was the last time you opened your mouth to tell a friend, a co-worker, a family member about Jesus? What are you doing to spread Jesus's fame? What are we as a church doing to spread Jesus's fame? Let's respond to the authority of Jesus and spread his fame throughout Yokohama, Japan, and the world. Let's pray.